

5 日本人学校のうつりかわり

(1) 日本人学校ができたころ

子供たちのためにぜひ日本人学校をつくらねば・・・・・・・・。

スリランカに來ている日本人の間でこの気持ちが盛り上がったのは昭和39年のことでした。そして、その年の10月には、そのときの高瀬大使を校長先生として大使館の2室を借りて「セイロン日本人会附属日本人学校」という名前で開校しました。平日は午後5時から6時まで、土曜日は午前9時から正午まで国語を中心に授業を行いました。



大使館内の最初の日本人学校

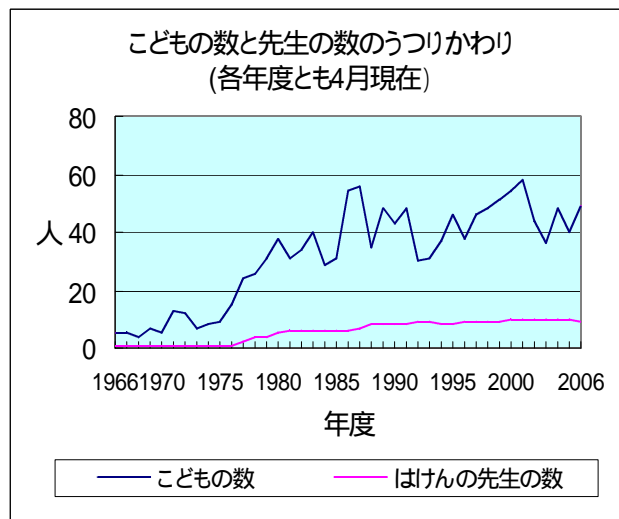
先生は2人で児童は7人でした。

その後、昭和41年9月2日に文部省（当時）から正式な日本人学校として認められ開校式を行いました。そのときのこどもの数は4人でした。

(2) 日本人学校のうつりかわり

昭和42年9月、大使館の中では狭くなったので、ゴールロードに引っ越しをしました。

このころには学校のきまりも整い、全教科の授業も行われるようになりました。



昭和44年6月、海沿いにある校舎では設備や教材がいたみやすく、児童数が増えて狭くなりそうだという理由からスケルトンロードに移りました。

スケルトンロード



さらに、昭和48年にはパークサーカス・パークロードに移りました。しかし、運河の近くで蚊が多いため、4年後の昭和52年2月28日にガバーストリートに移りました。この年の6月には中学部もできました。

パークサーカス・パークロード



その後、子供の数もどんどん増えてきたために、昭和60年11月23日にホートンプレイスに移りました。

ガバーストリート



昭和62年4月27日からは、14年間にわたって、バガタレロードの校舎で学びました。

ホートンプレイス

このように、コロンボ日本人学校は長い歴史の中で、大使館や日本人会、父母の努力によって設備も次第に整い、授業も日本で受けるのとほとんど変わらないまでになりました。



そして、平成14年(2002年)4月、念願だった自分たちの校舎が完成し、平成18年には開校40周年をむかえました。

バガタレロード

